3　調整池の造成を契機とした地域づくり（栃木県市貝町）

国営事業による調整池造成を契機に、地域住民で構成された協議会を設立し、公園の維持管理や各種イベントの開催を通じて地域コミュニティを再構築。

地区の特徴

・栃木県の東部に位置する芳賀台地を中心とする農地において、安定した用水供給と農業経営近代化及び営農合理化を図ることを目的とした農業農村整備事業を実施。

・事業で造成された調整池の残土置場を「芝ざくら公園」として整備し、地域住民からなる協議会が維持・管理を行うほか、芝ざくらまつり等の各種イベントを開催。

・H27に「ディスカバー農山漁村(むら）の宝」に選定。

（出典：芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会HP）

農業農村整備事業との関係

【国営かんがい排水事業「芳賀台地地区」（S62～H14）、水環境整備事業】

・国営事業での調整池造成を契機に、発生した管理用地の円滑な維持管理と有効活用を図るため、せせらぎ水路など親水施設の整備を展開。

取組の内容

・本地域は少子高齢化による過疎化が深刻な問題となっており、地域活性化の拠点づくりが強く望まれてきた。

・そのような中、塩田調整池造成を契機に、せせらぎ水路など親水施設の整備及び隣地に「芝ざくら公園」が造成されるとともに、公園併設のレストランや直売所の管理運営のため、周辺の３地区がH15年に「芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会」を設立し、活動を開始。

・公園の芝ざくら2.2haの植栽は地元協議会が主体となり延べ1,500人の地域住民ボランティアの参加を得て実施。

・毎年、芝ざくらまつりが開催される時期には、町内外から20万人以上の観光客が訪れ、同時に地元農産物や加工品などの直売も行われる等、農業農村整備事業を契機に地域づくりの取組につながっている。

高校生による植栽ボランティア
（出典：ディスカバー 農山漁村の宝HP）

・このほか、観光ツアーの開催や農作物収穫体験、そばオーナー制、大流しそうめん大会等のイベントの開催等により観光誘客に取り組む。

・協議会は、公園の指定管理者として芝ざくらの育成や草刈り等を実施。

・協議会は、地域内の全ての家が会員となり活動。「自分たちの手で、自分たちの住む地域を良くしたい」という想いが育まれ、これまで以上の地域コミュニティが再構築。

芝ざくらまつり（出典：ディスカバー 農山漁村の宝HP、市貝町HP）

取組主体

〇芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会（事務局：市貝町企画振興課内）